

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
診療局参与	大野 昭
部 長 兼リハビリセンター副部長	樫根 晋
医 長	倉敷 有紀子
医 員	高井 研次

—概要—

糖尿病・内分泌代謝内科では糖尿病および内分泌疾患の患者さんの診療を行っている。当院は救命救急センターを併設しており、多くの内分泌緊急症例を救命診療科との連携の下、診断・治療を行っている。また妊娠に関連した耐糖能障害、甲状腺機能異常の症例については、産科と連携し治療を行っている。一方、近年増加しつつある糖尿病症例については、医師、看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士がチームとなり、患者教育、指導を行っている。当院における糖尿病療養指導士は10名であり、いずれの職種にも療養指導士が在籍している。各職種がその特徴を生かした指導を行うことにより、より効率的な患者指導が可能となっている。

人員としては常勤医として大野、樫根、倉敷、高井医師の4名。非常勤医として、矢頃医師、中田医師、梶本医師および大阪大学総合地域医療講座 福井助教で診療に当たった。

外来診療については、糖尿病および内分泌疾患が主であり、当院においてはバセドウ病、甲状腺腫瘍などの甲状腺疾患の診療が多い。一方、入院については、糖尿病教育入院が多い。また他科の患者さんにおいて血糖コントロール不良が判明した場合、共観として、血糖コントロールを担当し、260症例程度を担当した。

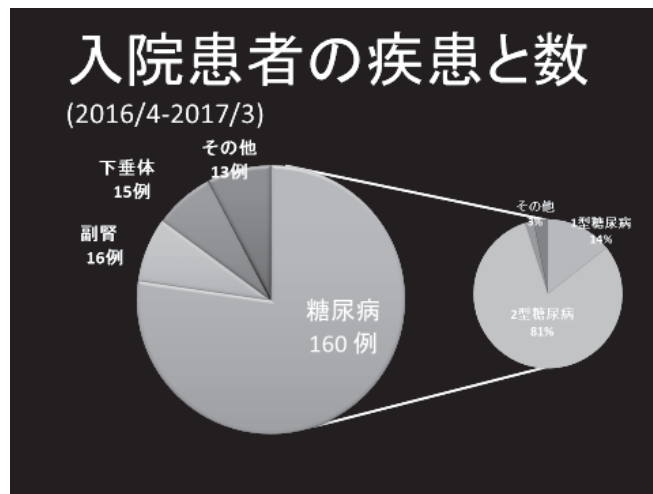
2016年12月日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰに認定され、糖尿病専門医養成に必要な環境が整備された。

—実績—

2016年4月から2017年3月までの当院入院患者は207症例であり、糖尿病患者が160例(1型糖尿病20例、糖尿病ケトアシドーシス3例、2型糖尿病129例、妊娠関連3例、その他5例)、下垂体疾患15例、副腎疾患16例、甲状腺/副甲状腺疾患4例であった。糖尿病症例に関しては2015年度の123症例であり、大幅に症例数は増加した。また希少な内分泌疾患症例、内分泌緊急症例なども多く担当することができた。

糖尿病教育指導として隔週の月曜日から金曜日午後の

30分間を用いて、糖尿病教室を施行した。泉佐野市保健センター主催の健康フェスタに参加し、健康相談などを行った。また市民を対象にした生活習慣病教室を行い、多数の受講者が見られた。



—今年度の成果と反省点—

大幅な入院患者の増加が見られた。糖尿病入院患者数は泉南地区において有数の症例数であり、泉南地区の中心的施設となりつつある。また、日本糖尿病学会教育認定施設Ⅰに認定され、糖尿病専門教育施設としての体制が整った。

一方、透析予防外来、フットケア外来に関しては受診が伸び悩んだ。今後積極的に受診症例を増やしていく必要がある。

—来年度への抱負—

外来および入院での糖尿病患者教育の体制をさらに向上させる。患者教育などをより円滑に効率的に進めるため、糖尿病患者会の設立を目標としたい。また、日本内分泌学会教育認定施設に認定されることが来年度の目標である。